養した記念塔で本尊は弁才天（河の神・水の神・宇賀神・蛇）である。

第三節　その他信仰塔

一　山岳信仰塔・社寺信仰塔

諸国の山伏信仰の神や参詣登山した講の行完成記念に建てる石造物を山岳信仰供養塔という。

各講登山記念塔として信仰の証としている。

木曽御嶽供養塔　出羽三山講供養塔　榛名講供養塔　富士講供養塔
大山講供養塔　戸隠講供養塔　三峰講供養塔　秋葉山供養塔
愛宕講供養塔　白山講供養塔　古峰ヶ原講供養塔　大峰講供養塔等

1　木曽御嶽供養塔

中山道木曽路の御嶽宿の西に聳える御嶽山は、火山の山貌が神秘に満ちているからか修行者の道場であった。江戸時代中期の天明五年（一七八五）に尾張の覚明が登山道黒沢口を開き、以降道者以外の普通の人も登山できるようになった。一方武州秩父大滝村出生といわれる普寛が、七年後の寛政四年（一七九二）に登山道王滝口を開き、より容易に登山が可能になった。さらに享和年間（一八〇一～四）に普寛と越後大崎村出生の泰賢が登山道大崎口を開いたという。

木曽御嶽講の碑は御嶽信仰団体の登山記念の碑で、修験を基とする信者を引率しての登山が多かった。碑は中央に「御嶽山座王大権現」右に「八海山提頭羅神王」左に「三笠山刀利天宮」と刻んで祀るのである。八海山は新潟県大和町にある。元来八海山の神は、国狭槌尊（くにのさかつちのみこと）、瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）、大山祇神（おおやまつみのかみ）、木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）、日本武尊（やまとたけるのみこと）の五柱であるが、普寛が江戸八丁堀で霊夢を見て、『大般若経』の提頭羅神王が降臨して開山を命じたという。それで八海山提頭羅神王が御嶽座王大権現の右脇侍となった。また寛政二年（一七九〇）に普寛は鬼石に三笠山を開き、後にこれを御嶽山の寄生火山の三笠山に勧請して刀利天宮として祀り、御嶽山の左脇侍としたのである。

越後の泰賢は埼玉県本庄市で没し、普寛堂前に師の普寛と弟子の泰賢の墓が並んでいる。本庄市石尊様（阿夫利天神社）石段下の和菓子店では、「普寛最中」が名物となっている。

なお長野県小県郡武石村本入生まれの一心は、普寛の法統を継いで御嶽登山や各地での信仰の普及に努めたが、幕府の弾圧を受けて文政三年（一八二〇）に島流しの刑を受け、その地で没した。また一山は神奈川県津久井郡の人で、普寛や一心の法統を継ぎ各地で御嶽信仰を広めた。『伊勢崎の近世石造物』

この覚明・普寛・泰賢・一心・一山のごとく御嶽の神に仕え、その信仰を広めた人の魂は、母なる御山、御嶽に帰って死後なおその神に仕えると信じられ、このような先達（せんだつ）を霊神とする。御嶽登山道や各地の講の地に霊神碑が祀られ、御嶽登山道には万を数えるといわれる。

各市町の状況は次のとおりである。

大間々町　初出安政　二年（一八五五）総数　二基（年紀銘有　一基　五〇％）
新田町　初出寛政一二年（一八〇〇）総数一〇基（年紀銘有　七基　七〇％）
境町　初出嘉永　三年（一八五〇）総数　八基（年紀銘有　五基　六三％）
伊勢崎市　初出嘉永　四年（一八五一）総数二九基（年紀銘有二〇基　六九％）
玉村町　初出弘化　二年（一八四五）総数　七基（年紀銘有　五基　七一％）

なお御嶽信仰の指導者、先達の霊神碑は次のとおりである。

新田町　初出天保　六年（一八三五）総数　五基（年紀銘有　四基　八〇％）
境町　初出安政　二年（一八五五）総数　二基（全部年紀銘有）
伊勢崎市　初出万延　元年（一八六〇）総数二六基（年紀銘有二四基　九二％）
玉村町　初出明治　二年（一八六九）総数　四基（年紀銘有　一基　五〇％）

※　伊勢崎市は著しく多く、玉村町は新田町とほぼ同数である。

玉村町の初出は宇貫の弘化二年（一八四五）一三五cm文字塔（安山岩自然石）で、正面中央に大きく「御嶽山」左面に「弘化二乙巳八月吉日　村中」と刻む。昭和五〇年代には烏川に下りる坂道上の河岸段丘の上にあった。

飯倉　慈恩寺の慶応元年（一八六五）文字塔は、正面中央に「天地開闢　御嶽山座王大権現」右に「八海山　提頭羅神王」左に「三笠山刀利寿宮」とあり、一庵美孝の書で施主は天田、斎藤両氏である。

板井　明治二年（一八六九）霊神碑は、正面に「天駟霊神」右面に「當所東組中」とある。

同所には明治一六年（一八八三）御嶽大神の一六〇cm碑（粘板岩）と八八cm三笠山大神碑、一一三cm八海山大神碑、七五cm一心霊神碑もある。

同じ板井には九〇cm寛明霊神碑（粘板岩）と明治一六年（一八八三）一六〇cm木花咲耶姫命富士講碑も建っている。

宇貫の明治二〇年（一八八七）一四二cm八海大神碑（粘板岩自然石）は、蓮堂瀬漢書で石工は板井村の熊五郎とある。

2　出羽三山講供養塔

出羽三山講供養塔は月山・羽黒山・湯殿山の登山講の記念塔である。この三山は六世紀末崇峻天皇の王子、蜂子皇子によって開山されたと伝えられ、修験の道場に仏教の色が加わり、いわゆる神仏混淆の山となった。真言宗から途中天台宗に転宗し、明治時代になって仏教色を排して修験一色となった。中心の羽黒山は三山中標高が低く、羽黒山神社は伊氐波神（いでハのかみ）（出羽をイデハとよめる）と左右に月山、湯殿山の神を祀る三山合祭殿である。ここには一〇〇cm以上の茅葺屋根の堂々たる建築がある。

山麓に山伏が宿坊を営んで居住し、信者講の者はここに泊まって登山する。民間の信仰では山上の岩から湧き出る湯（温泉）の不可思議に神の威光を感じてか三山信仰の中心は湯殿山といわれている。

三山の巡拝塔は月山・湯殿山・羽黒山と横に並べて彫る例が多い。三山信仰の普及は江戸時代中期以降といわれている。

3　榛名講供養塔

榛名講供養塔は埴山毘売命（はにやまひめのみこと）を祀る榛名神社の講で、上野十二社の六の宮である。近世には神仏混淆で満行大権現といわれ、上野寛永寺末となり虫除け・霜よけ・養蚕の神として農家の人々の信仰による講が多かった。満行大権現・満行宮・榛名神社などと刻んだ文字塔が多い。満行に就いて『大日本地名辞書』に「上野西七郡の領主群馬の太郎満行を祭るとあるも疑うべし。尾張国神名帳に、立山満行大菩薩　伊豆満行大菩薩　二荒満行大菩薩などあるをみれば神徳を稱したるなり」とある。また祭神埴山毘売命は伊弉冉尊（いざなぎのみこと）が火之迦具土（ほのかぐつち）神を生み御陰をやかれてあの世へ行く時に生まれた神で、波邇夜須毘古（はにやすひこ）神とともに（または同体）土の神という。

4　富士講供養塔

富士講の碑は、霊山富士浅間神社信仰の講が先達の忌年や何回登山したかを記念した碑である。山梨県富士吉田市には修験の講元、いわゆる御師（おし）の家が並び講を泊めて登山の先達となり、浅間神社（せんげんじんじゃ）（木花開耶姫命）の功徳を広めた。

江戸時代には実際の富士登山ができない人のため、江戸市中に小高い丘を築き頂上に小祠を祀り、中途に小御嶽石尊大権現を祀って富士塚といった。江戸時代末期には幕府による禁令にふれたが明治維新後扶桑教に引きつがれて神道色の強いものへと変化した。先年玉村町文化財調査委員の視察研修で訪れた富士吉田市の御師の家はありし日の富士講の繁昌を物語るに十分な室の模様であった。

5　大山講供養塔

大山講の供養塔は神奈川県大山の神、石尊大権現阿夫利天神社を信仰登山する人々の登山記念の供養塔である。大山中腹には不動明王を始め五大明王を祀る大山寺と本社があり、山頂の奥宮とともに江戸時代は神仏混淆の修験道場であった。